

令和5年度

中学校ブロック毎 ジョイントプラン

構想図



宇治市教育の日シンボルキャラクター：ハチャ君

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1 宇治中学校ブロック | 6 南宇治中学校ブロック |
| 2 北宇治中学校ブロック | 7 広野中学校ブロック |
| 3 槇島中学校ブロック | 8 東宇治中学校ブロック |
| 4 西小倉中学校ブロック | 9 木幡中学校ブロック |
| 5 西宇治中学校ブロック | 10 黄檗中学校ブロック（施設一体型） |

令和5年4月

宇治市教育委員会

宇治中学校ブロックジョイントプラン
—令和5年度 小中一貫教育推進計画—

宇治市立宇治中学校 校長 不破 真紀
宇治市立菟道小学校 校長 渡邊 和孝
宇治市立菟道第二小学校 校長 俣野 岳

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

ブロック小中一貫教育目標

ふるさと宇治を愛し、未来を展望し、たくましく生きる児童生徒の育成

めざす児童生徒像

- ア とともに学び、考える児童生徒
- イ たくましく生きる児童生徒
- ウ 笑顔を大切にする児童生徒

2 令和4年度取組の成果と課題（「取組内容」「子どもの態様」など）

【成果】

- ・学力の向上に向け、各教科部会において、実践交流シートを活用し「自分の考えを文章化する」をテーマに授業交流・授業改善を進めることができた。
- ・全国学力・学習状況調査の結果及び質問紙調査の回答結果をもとに、本ブロック児童生徒の課題を分析し、共有することができた。
- ・課題解決シートを活用し、それぞれの学級経営を振り返るとともに、授業改善を意識して取り組むことができた。
- ・本ブロック内の人権課題について研修を行ったり、同和問題に係る直接学習の授業参観を行ったりすることで人権に対する教職員の理解を深めることができた。
- ・養護教員部会では、より深い交流により、児童生徒への効果的な支援を行うことができた。
- ・中学校体験入学を行い、小学校6年生が中学生の話聞くことで進学への不安解消につながった。

【課題】

- ・児童生徒の学力向上に向け、学級経営の見直しとつなげて授業改善に取り組む必要がある。
- ・各校で、児童生徒同士、児童生徒と教員とのつながりを意識した学級経営や授業改善について共通理解と情報の蓄積を引き続き行う必要がある。

3 本年度の目標と目標に近づくための推進の方向性（核となる取組）

【目標】

「学力の定着・人権意識の高揚のための学級経営と授業の改善」

【推進の概要】

昨年度共有された「授業内容や関わりへの満足感が低い」という課題を踏まえて、学級経営に重点を置き、児童生徒の満足感を向上させることを授業改善につなげながら取組を推進させる。

4 令和5年度小中一貫教育の到達目標に向けての各到達目標達成にかかる具体的取組

(1) 9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながり

取組概要	詳細
小・中学校教員が協働して授業改善を進める。	全教員が小グループに分かれて、研究授業を通して学級経営を踏まえた授業改善について協議し、実践に活かすことで児童生徒の学力向上につなげる。 定期的に児童生徒アンケートを実施することで取組を検証し、その結果をもとに改善につながるような学習活動を設定していく。

(2) 連続性のある子ども理解と生徒指導

取組概要	詳細
児童生徒の情報共有を行う。 教職員一人一人の人権意識を向上させる。	ブロック校長会、教頭会、コーディネーター会議、児童生徒連絡部において児童生徒の実態や課題、強み等を交流し、共通した視点で生徒指導・支援を行う。 人権学習の授業参観、事後研究会を通して、同和問題をはじめとする様々な人権問題について正しく理解するとともに、教職員一人一人の人権意識を向上させる。

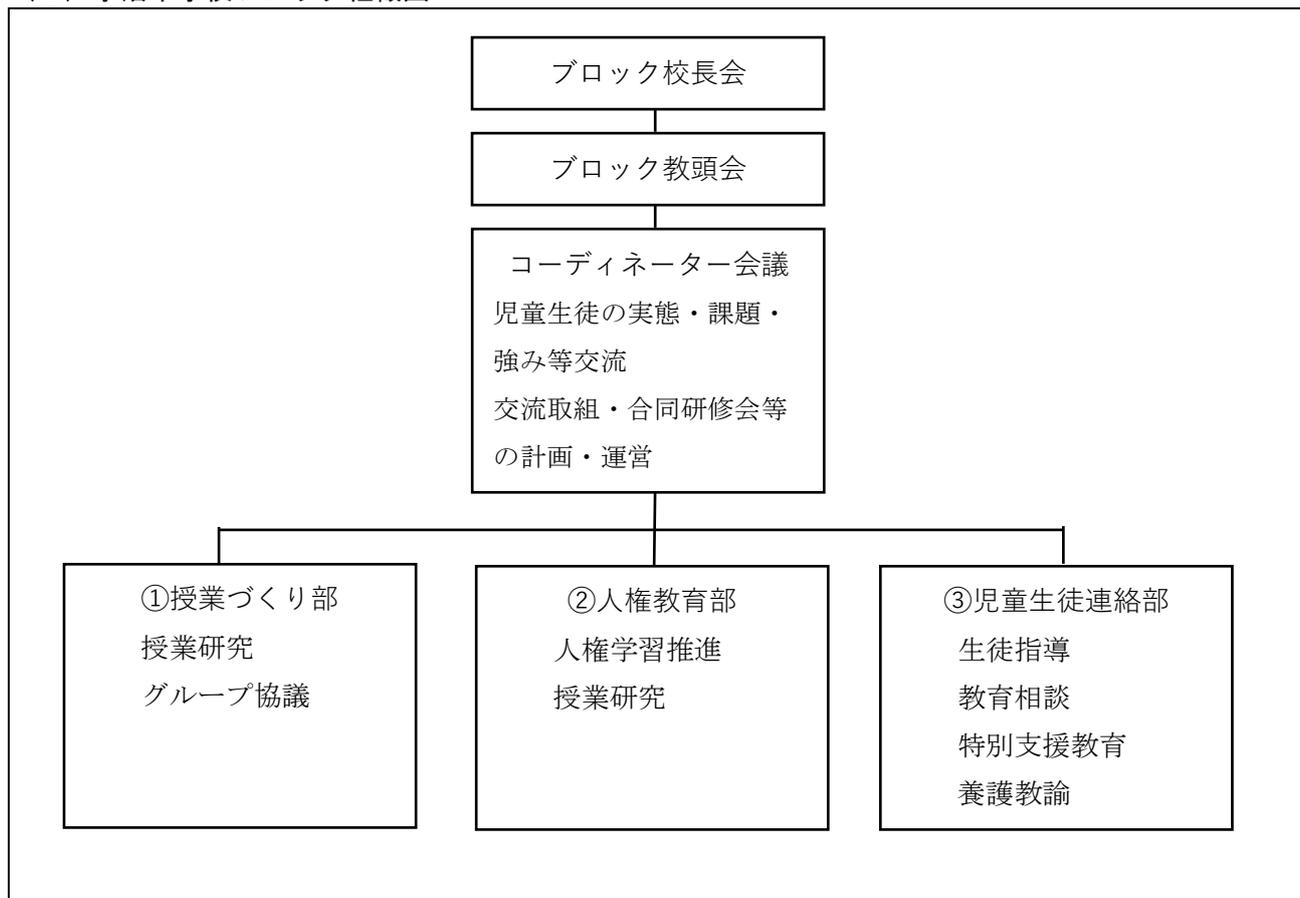
(3) 指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働

取組概要	詳細
交流取組を実施する。 合同研修会で共通課題や取組推進の視点について協議する。	コーディネーターが中心となり、その内容、意義、効果等について協議しながら、児童生徒交流取組（クラブフェスティバル・合同練習・体験入学等）を実施する。 合同研修会を通じて、3校の教職員が、ブロックの課題を明確化し、共通した視点で教育活動を進めているよう連携、協働を進める。

(4) 家庭・学校・地域でつくる育ちの輪

取組概要	詳細
家庭・地域に小中一貫の取組を啓発し、同じ方向性で教育活動を進める。	小中一貫教育校だより（F U T T）や学校だより、ホームページ等を積極的に活用し、取組を啓発していく。 コミュニティ・スクールとして、学校と地域が一体となって小中一貫教育に取り組む。 義務教育9年間を見通して、家庭学習の充実を図る。

(5) 宇治中学校ブロック組織図



(6) 小中一貫教育コーディネーター (SC) (LC・・・ラーニングコーディネーター)

LC・・・宇治市立菟道第二小学校 西村 朋子

SC・・・宇治市立宇治中学校 岩井 佳慧 宇治市立菟道小学校 橋本 伸明

令和5年度 宇治中学校ブロックジョイントプラン 構想図
—宇治中・菟道小・菟道第二小—

教育目標・めざす子ども像

ブロック小中一貫教育目標

ふるさと宇治を愛し、未来を展望し、たくましく生きる児童生徒の育成

めざす児童生徒像

- ア とともに学び、考える児童生徒
- イ たくましく生きる児童生徒
- ウ 笑顔を大切にする児童生徒

本年度の目標・推進の方向性（重点）

「学力の定着・人権意識の高揚のための学級経営と授業の改善」

昨年度共有された「授業内容や関わりへの満足感が低い」という課題を踏まえて、学級経営に重点を置き、児童生徒の満足感を向上させることを授業改善につなげながら取組を推進させる。

中学校ブロックの本年度の取組

☆9年間を見通した子どもの育ちと学びの
つながりに関わって

学力向上を目指した合同研究会
学級経営を踏まえた授業改善の推進
児童生徒の交流

☆連続性のある子ども理解と生徒指導に関わって

児童生徒の実態・課題・強みの情報共有
教職員一人一人の人権意識の向上
共通した視点での生徒指導・支援

☆指導や支援に磨きがかかる教職員の連携
と協働に関わって

交流取組の推進
共通課題や取組推進の視点についての
協議

☆家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって

各種たよりやホームページによる小中一貫
の取組の啓発
コミュニティ・スクールとして地域とともにある
学校を目指すとともに、それに基づいた教育活動
の推進
家庭学習の充実

☆推進体制の充実と改善

- 方針・目標の設定・提案
- 小中一貫教育推進に係る研修や取組の企画・立案
- 小中教育推進に係る中学校ブロック各校内の連絡・調整
- 学力・学習調査の結果やアンケート結果による児童生徒の実態把握
- 小中一貫教育の取組の啓発

北宇治中学校ブロックジョイントプラン
—令和5年度 小中一貫教育推進計画—

宇治市立北宇治中学校 校長 山田 裕一

宇治市立小倉小学校 校長 信太 義光

宇治市立北小倉小学校 校長 市橋 公也

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

教育目標「学力の向上を目指し、多角的に小中の連携を進める」
(めざす子ども像)

- ・自ら考え、自発的に表現できる子（知）
- ・人と地域とのつながりの中で豊かな心を育て、他を大切にする子（徳）
- ・運動に親しむことにより、楽しく生活できる子（体）

2 令和4年度取組の成果と課題（「取組内容」「子どもの態様」など）

【成果】

- ・小中一貫教育における、組織体制が確立できた。
- ・各校のHPに「家庭教育の手引き」をアップし、いろんな場面で活用が図られた。
- ・全国学力・学習状況調査などの結果から、9年間の学びの中でのC・D層の状況把握ができた。

【課題】

- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、感染防止の観点から小中一貫教育の取組がほとんどできなかった。
- ・小中一貫教育における取組を、教員の負担を減らしつつ「学力向上」に焦点を当てたものとして、さらに効率化や充実化が図れる体制づくりを模索していかなければならない。
- ・通信の発行をはじめとして、あらゆる機会を通じて小中一貫教育の取組を、さらに保護者や地域に周知徹底していく必要がある。

3 本年度の目標と目標に近づくための推進の方向性（核となる取組）

【目標】

(1)学力の向上を目指し、多角的に小中の連携を進める。

小中一貫の視点から、日々の授業技術の向上や学力定着のための具体的方策を探り実践していく。

(2)学力充実部を中心に、小中一貫教育を推進する組織力を向上させる。

(3)保護者や地域住民などに、積極的に小中一貫教育の取組や成果等を発信していく。

【推進の概要】

(1)小中一貫に向けた企画会議の定期的な開催や計画した取組を確実にを行うことを通じて、小中学校の教員の連携とこれによるブロックとしての学力の向上を図る。

(2)小中一貫教育推進のための組織を構築する。

(3)「小中一貫教育だより」等の通信を学期1回程度定期的に発行し、また学校HP掲載等を通じて保護者や地域住民などに、小中一貫教育の取組や成果等をさらに周知徹底していく。

4 令和5年度小中一貫教育の到達目標に向けての各到達目標達成にかかる具体的取組

(1) 9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながり

取組概要	詳細
実践交流を中心に、9年間を見通した学習指導のあり方や有効な方法を研究する。	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査や京都府学力・学習状況調査などによる分析を通じて、児童・生徒の学力分析を行う。 ・各校の交流の中で、家庭学習の定着に向けた方策を模索していく。 ・小中一貫教育目標や各校の研究テーマ等に沿った授業改善等の実践交流を行う。 ・タブレットなどのICT機器等を活用した学習実践の交流を行い、積極的に生かしていく中で「学力の向上」につなげていく。 ・特支・教相対象児童、生徒に対する有効な方策やアプローチ方法を示していく。 ・小中それぞれの児童、生徒の実態交流をより細かく行い、連携を図っていく。 ・生指面の課題のある児童・生徒や不登校児童・生徒に対する有効な方策やアプローチ方法を模索していく。 ・小中それぞれの児童、生徒の実態交流をより細かく行い、連携を図っていく。

(2) 連続性のある子ども理解と生徒指導

取組概要	詳細
①小中授業参観 ②学力の実態把握・分析や実践内容の交流 ③児童・生徒の交流	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の授業参観を通じて、学校や児童・生徒の実態についての理解を深める。 ・全国学力・学習状況調査等の結果を活用し、学力実態の分析を行い、その結果をもとに「学力向上」につなげていく ・地域ボランティア活動、児童会・生徒会活動や交流を通して小小連携、小中連携をすすめる。 ・小学6年生を対象にした半日入学の取組を実施する。

(3) 指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働

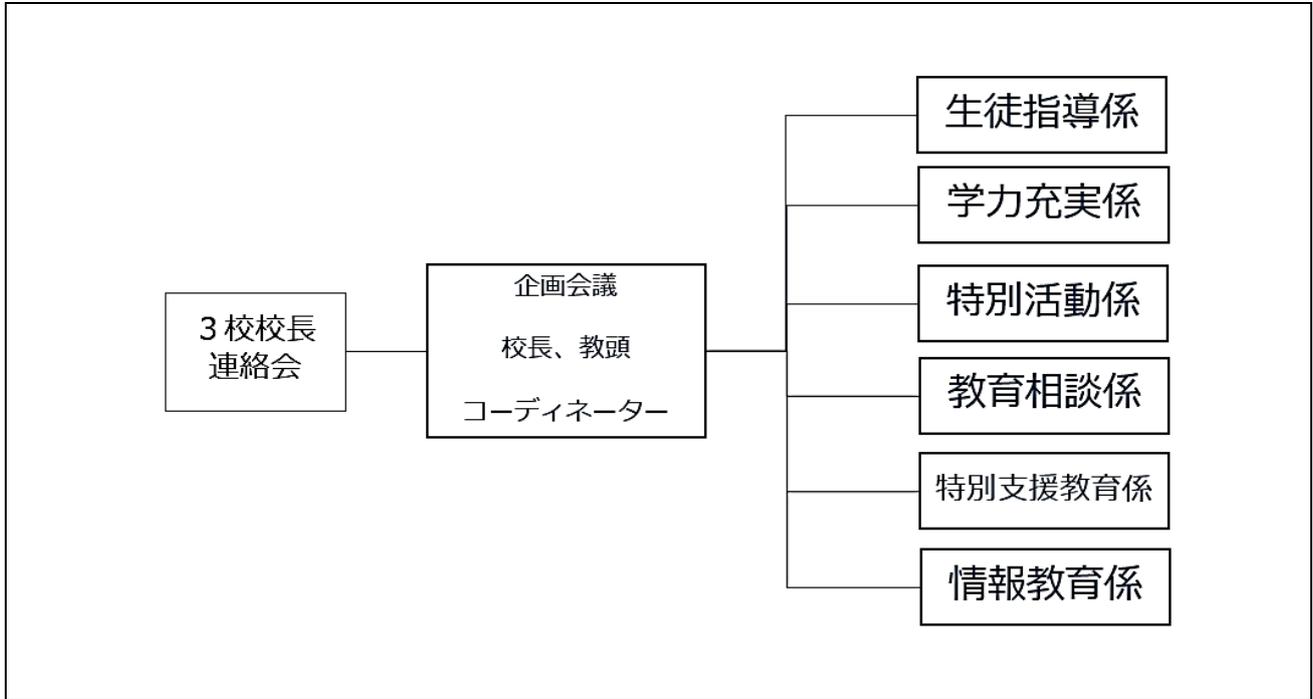
取組概要	詳細
機能的な組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の実態や実践の交流を中心に連携を行い、その成果を生かし、小中一貫教育における「学力の向上」につなげていく。 ・コーディネーター会議等を必要に応じて開き、調整する。 ・ICT機器などの活用も検討しながら、小中一貫教育の推進を模索していく。

(4) 家庭・学校・地域でつくる育ちの輪

取組概要	詳細
①小中一貫教育ニュースの発行	・保護者向け小中一貫教育ニュースを学期に1回程度発行し、活動内容を保護者・地域に紹介していく。
②家庭学習の取組	・学校HPの活用等を行い、ブロック内の小中一貫教育の取組の情報発信を適切に行う。

- ・家庭学習の時間を定着させることで学力の向上を図る。
- ・宿題や家庭学習ノートなどを配布し、自学自習を促し、適切な評価につなげるなどのことを行い、家庭学習定着に向けた方策を模索していく。

(5) 北宇治中学校ブロック組織図



(6) 小中一貫教育コーディネーター (SC) (LC・・・ラーニングコーディネーター)

LC・・・宇治市立北宇治中学校 酒井 康輔

SC・・・宇治市立小倉小学校 太田 裕美 宇治市立北小倉小学校 青野 裕平

☆ジョイントプランは組織図を含めてA4用紙3葉まで。

令和5年度 北宇治中学校ブロックジョイントプラン 構想図

—北宇治中・小倉小・北小倉小—

教育目標・めざす子ども像

教育目標「学力の向上を目指し、多角的に小中の連携を進める」

- (目指す子ども像) ・自ら考え、自発的に表現できる子 (知)
- ・人と地域とのつながりの中で豊かな心を育て、他を大切にできる子 (徳)
 - ・運動に親しむことにより、楽しく生活できる子 (体)

本年度の目標・推進の方向性 (重点)

- (1)小中学校の教員が連携して学力の向上を図る。
- ・学力向上のための方策を研究する (小中一貫の視点から、具体的方策を探り実践していく)
- (2)学力部を中心に、小中一貫教育を推進する組織力を向上させる。
- (3)保護者や地域住民などに、積極的に小中一貫教育の取組や成果等を発信する。

中学校ブロックの本年度の取組

☆9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって
生徒指導係、学力充実係、特別活動係、教育相談係、特別支援教育係、情報教育係に分かれ、9年間を見通した系統的な子どもの成長を育んでいく。

☆連続性のある子ども理解と生徒指導に関わって

- ・対象児童・生徒に対する有効な方策やアプローチ方法を示していく。
- ・小学校、中学校それぞれの児童・生徒の実態交流をより細かく行い、一貫して連携を図っていく。

☆指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって

- ・各校の実態や実践の交流を中心に連携を行い、その成果を生かし、小中一貫教育における「学力の向上」につなげていく。
- ・コーディネーター会議等を必要に応じて開き、調整する。
- ・ICT機器などの活用も検討しながら、小中一貫教育の推進を模索していく

☆家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって

①小中一貫教育ニュースの発行

- ・原則、学期に1回程度発行し、活動内容を保護者・地域に紹介

②家庭学習の取組

- ・※「家庭学習の手引き」などを活用し、保護者や地域の協力を得ながら、家庭学習の定着を図る。(※各校、HPに記載)
- ・宿題や家庭学習ノートなどを配布し、自学自習を促し、適切な評価につなげる。

☆推進体制の充実と改善 (ラーニングコーディネーターの主な計画内容を記載)

- ・各係会における交流を中心として、小中一貫教育を推進し「学力の向上」につなげていく。
- ・コーディネーター会議を必要に応じて開き、調整する。
- ・各係会で顧問1名、代表者1名が中心となって係会を運営する。

榎島中学校ブロックジョイントプラン
—令和5年度 小中一貫教育推進計画—

宇治市立榎島中学校 校長 平岡 順一
宇治市立榎島小学校 校長 小槌 晶乃
宇治市立北榎島小学校 校長 吉田 周晃

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

小中一貫教育目標 「豊かな人間性と未来を創造する子どもの育成」

めざす子ども像 心身共に健康で、明るく活動する子
意欲的に学び、深く考え、豊かに表現する子
地域でつながり、共に支え合い、高め合う子

2 令和4年度取組の成果と課題（「取組内容」「子どもの態様」など）

【成果】

- ・直接訪問する形で各校での授業参観を行い、魅力的な授業づくりの観点でグループ協議を行うことができた。
- ・グループ会議を通して、ブロックの児童・生徒の学力を伸ばすために取り組むべきこと、各校の授業改善の取組について交流・協議を行った。
- ・部活動体験のみとなったが、中学校を訪問する形での中学校体験を実施することができた。
- ・服のチカラプロジェクトの活動がブロックに根付いており、特に小学校では多くの古着回収を行うことができた。
- ・絵画の巡回展では児童生徒は他校の作品を興味深く鑑賞することができた。
- ・「マキシマム」を継続発行することができた。
- ・榎島コミセンでも絵画巡回展の交流を行い、多くの地域の方々や保護者にも見ていただけた。
- ・コロナ禍にあり、実際に顔を合わせる機会を持つことは難しかったが、zoomを使用して、「夢・未来」会議やコーディネーター会議を行うことができた。
- ・夏季研修会において、ブロックの共通課題である児童生徒理解を進めるための講演会を実施することができた。

【課題】

- ・新型コロナ拡大防止のため、部会を開くことができず、授業作りや国語部会など、交流や確認ができなかった。少しでも小中の交流が進むよう取組を考えていく。
- ・ブロック共通で一貫した取組を考え、同じ方向を向いて授業改善と学力向上を図れるよう、取組を進める体制作りをこれからも進めていく。
- ・コロナ禍での行事について、効果的なものを精選するとともに、さらに効果のある取組や活動にできるように検討を重ねていかなければならない。また、コロナが収束した後でも、行事の有効性等を考えながら、適切で効果的な取組を検討していかなければならない。
- ・コロナ禍にあり、榎島中ブロックPTA・育友会役員合同研修会を実施することができなかった。
- ・CSの観点からも、小中連携を地域との繋がりにも活かせるように、地域の活動と小中との取組を繋げ、小中一貫教育の成果を発揮する場面を増やしたい。
- ・コロナによりできなくなった取組の再編や復活等に時間を割くことになり、広報活動を十分に行うことができなかった。小中一貫教育を進めるためにも、発信の機会を増やしていく。

3 本年度の目標と目標に近づくための推進の方向性（核となる取組）

【目標】

「榎島中ブロックの児童・生徒たちの共通課題の克服を通して「読み取る力」「書き表す力」の向上を目指す」

【推進の概要】

榎島中ブロック全体で児童・生徒の学力向上における様々な課題解決を図るため、各校の実践交流や協議を通して授業改善を行い、児童・生徒の学力向上、特に国語の力の向上に努める。

4 令和5年度小中一貫教育の到達目標に向けての各到達目標達成にかかる具体的取組

（1）9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながり

取組概要	詳細
○学力分析を通して授業改善の取組	・学力分析部会を通して、児童・生徒の課題を把握し、課題克服に向けての方向性や取組について協議するとともに、児童・生徒の定着を把握し、効果的だった指導方法を確認し、課題克服の方策と有効な指導方法についてブロックで共有を図り、やましろ授業スタンダードを参考にして授業改善に繋げる。
○アクションプラン推進	・国語部会を中心に、「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」を推進していく。
○小中連携（英語）	・小中の接続をスムーズに行えるよう、教科連携教員（外国語）をキーパーソンとした連携や、研究・研修を推進する。
○小学生の中学校体験入学	・中学進学への不安を解消し、中学校生活への見通しを持つために、中学校での授業体験と部活動体験を行う。
○絵画巡回展	・中学校ブロックの児童生徒の代表絵画作品を3校および地域にも巡回展示する。
○服のチカラプロジェクト	・ブロックの小中学校の生徒会・児童会を中心に、ユニクロの古着回収の活動を行う。

（2）連続性のある子ども理解と生徒指導

取組概要	詳細
○生徒指導部会、特別支援教育部会による交流	・生徒指導や特別支援教育における児童・生徒理解を深め、小中接続をスムーズにするために情報交流や協議を行う。
○LCによる小6出前授業	・小中接続をスムーズにさせるため、中学校所属のラーニングコーディネーターが各小学校で、中学入学前の心得や準備等について授業を行う。
○各校授業参観	・各校の授業参観を通して、児童・生徒理解を深め、小中連携をスムーズに行う。
○夏季研修（講演会の企画）	・外部講師を招いて、児童・生徒理解、授業改善や各校の課題解決に繋がる内容についての研修を行う。

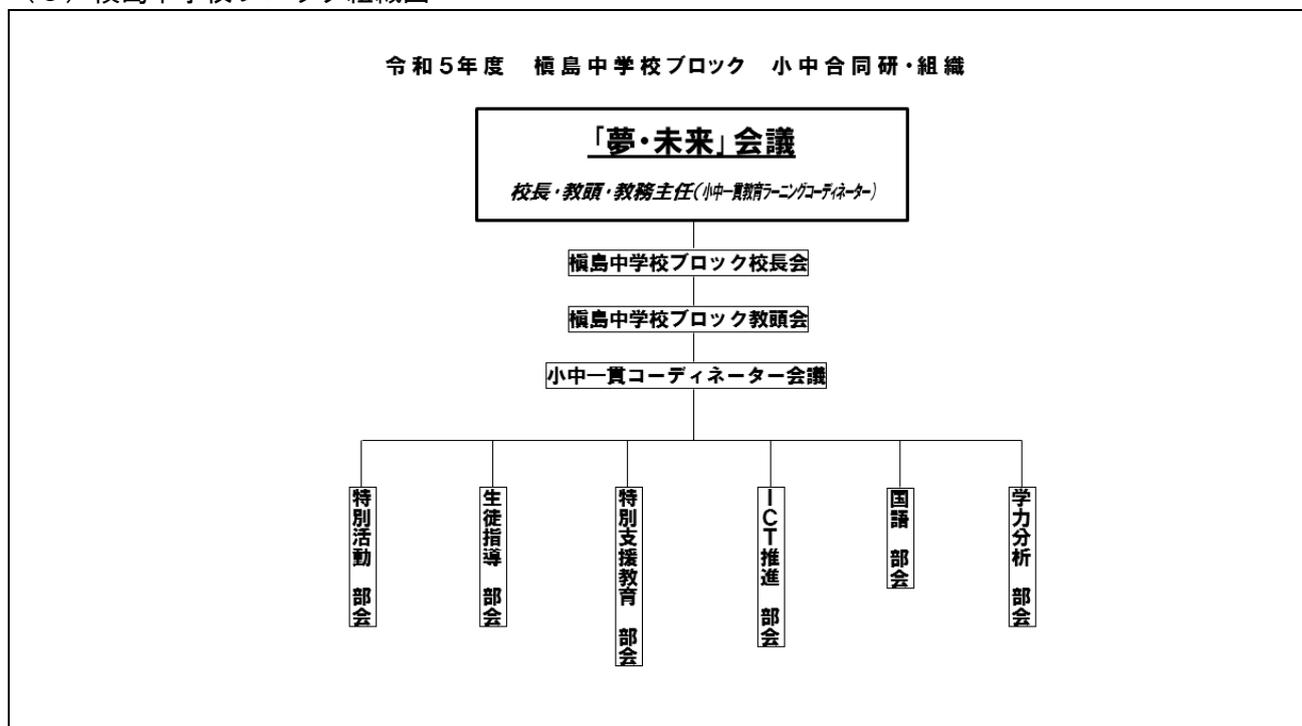
(3) 指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働

取組概要	詳細
○合同研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 榎島中ブロックの取組や目指す方向性などの確認や、各部会等の取組の報告等を行う。 ・ 学力分析部会、国語部会、ICT推進部会、特別支援教育部会、生徒指導部会、特別活動部会に分かれ、小中一貫教育の視点でそれぞれのグループにおける授業改善や取組の改善に向けて協議や、各校の情報交流を行う。
○各部会での授業改善・取組改善	

(4) 家庭・学校・地域でつくる育ちの輪

取組概要	詳細
○教職員広報の発行	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員広報を発行し、小中一貫教育推進に関わる情報を発信し、小中学校の教職員の共通理解を図りながら、取組を推進する。 ・ 小中一貫教育便り「マキシマム」の継続発行(保護者配布・地域回覧)やHPへの掲載、各校の広報誌での小中一貫教育目標やめざす子ども像、取組等の広報や校内掲示等を行い、小中一貫教育に向けた取組や研究を積極的に情報発信する。
○情報発信	
○地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校・地域行事で、児童生徒が共に活動したり、交流したりする場面や小中一貫教育の成果を発揮する場面を設定する。

(5) 榎島中学校ブロック組織図



(6) 小中一貫教育コーディネーター (SC) (LC・・・ラーニングコーディネーター)

LC・・・宇治市立榎島中学校 関 和也 6

SC・・・宇治市立榎島小学校 佐久田 洋介 宇治市立北榎島小学校 甲斐 聖人

☆ジョイントプランは組織図を含めてA4用紙3葉まで。

教育目標・めざす子ども像

ブロック小中一貫教育目標

「豊かな人間性と未来を創造する子どもの育成」

めざす子ども像

- 心身共に健康で、明るく活動する子
- 意欲的に学び、深く考え、豊かに表現する子

本年度の目標・推進の方向性（重点）

【榎島中学校ブロック研究テーマ】

「榎島中ブロックの児童・生徒たちの共通課題の克服を通して「読み取る力」「書き表す力」の向上を目指す」

【推進の概要】

榎島中ブロック全体で児童・生徒の学力向上における様々な課題解決を図るため、各校の実践交流や協議を通して授業改善を行い、児童・生徒の学力向上、特に国語の力の向上に努める。

中学校ブロックの本年度の取組

☆9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながり

- ・学力分析部会を通して、児童・生徒の課題を把握し、やましろ授業スタンダードを参考にして家庭学習の取組や授業改善に繋げる。
- ・国語部会を中心に、「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」を推進していく。
- ・特別活動部会を中心に、中学校体験や服のチカラプロジェクトなどの行事を通して、児童・生徒の繋がり作りや居場所作りをすすめる。

☆連続性のある子ども理解と生徒指導

- ・生徒指導や特別支援教育における児童・生徒理解を深め、小中接続をスムーズにするために情報交流や協議を行い、緊密な連携を図る。
- ・小中の接続をスムーズに行えるよう、教科連携教員(英語)やラーニングコーディネーターが、小学校の授業に関わる。
- ・各校の授業参観を通して、児童・生徒理解を深め、小中連携をスムーズに行う。

☆指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働

- ・合同研修会を通して、榎島中ブロックの取組や目指す方向性などの確認や、各部会等の取組の報告等を行う。
- ・学力分析部会、国語部会、ICT推進部会、特別支援教育部会、生徒指導部会、特別活動部会に分かれ、小中一貫教育の視点でそれぞれのグループにおける授業改善や取組の改善に向けて協議や、各校の情報交流を行う。

☆家庭・学校・地域でつくる育ちの輪

- ・小中一貫教育便り「マキシマム」の継続発行(保護者配布・地域回覧)やHPへの掲載、取組等の広報や校内掲示等を行い、小中一貫教育の取組や研究を積極的に情報発信する。
- ・学校・地域行事で、児童・生徒が共に活動したり、交流したりする場面や小中一貫教育の成果を発揮する場面を設定する。

☆推進体制の充実と改善（ラーニングコーディネーターの主な計画内容を記載）

- 小中一貫教育の取り組みや各部の研究実践を推進する。
- ブロック校長会、教頭会、コーディネーター会議を定期的に行い、ブロックの課題解決に努める。
- OLCによる各校視察を通して、ブロックの生徒理解に努め、目指すべき学力観を共有する。

西小倉中学校ブロックジョイントプラン
ー令和5年度 小中一貫教育推進計画ー

宇治市立西小倉中学校
校長 上田 智子
宇治市立西小倉小学校
校長 堀井 聡
宇治市立南小倉小学校
校長 手塚 ゆかり

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

小中9年間を通して 地域と共に 子ども達の ゆたかな心と 確かな学力をはぐくむ

- ・自分の考えを 豊かな表現力で伝え合う子
- ・地域とつながり 思いやりの心を大切にする子
- ・健康に気をつけ 自らの目標に向かってがんばる子

2 令和4年度取組の成果と課題（「取組内容」「子どもの態様」など）

【成果】

- ・コロナ禍前に実施していた取組の形をほぼ実施できた。
- ・LCによる出前講座を実施し、6年生に中学校入学における準備や意識を高めることにつながった。

【課題】

- ・8月はリモートを活用したが、顔合わせを含めた交流が12月になってしまった。
- ・取組が小6に偏った
- ・小中一貫校開校に向けた教育課程の見直しが急務
- ・不登校生徒が多く、学習への手立ての見直し

3 本年度の目標と目標に近づくための推進の方向性（核となる取組）

【目標】

「主体的・対話的で深い学びの実現」による確かな学力の育成

【推進の概要】

- ・コーチング、ファシリテーションの視点を持ち、児童生徒自身の学びを促す授業を展開する。
- ・支援を要する児童生徒の「個別最適な学び」を実現する。
- ・コーチングやファシリテーション、ICT機器の活用など、学習指導に有用なスキルについての研修会を行う。

4 令和5年度小中一貫教育の到達目標に向けての各到達目標達成にかかる具体的取組

(1) 9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながり

取組概要	詳細
・学力分析 ・研究授業 ・学習の手引きの見直し	・各校の学力の実態を把握・分析・共有する。 ・小学校で研究授業を行い、主体的に取り組む子どもの育成に向けて実践を共有し、指導方針を確立する。

(2) 連続性のある子ども理解と生徒指導

取組概要	詳細
<ul style="list-style-type: none"> ・通信の連携 ・中学校準備講座 ・生徒指導交流会 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の生徒指導通信を小学校に共有する。 ・中学校入学への不安軽減を図るため、LCが小学校を訪問し、出前講座を実施する。 ・各校の生徒指導部長による事象報告や実態や指導内容の共有化を図る。

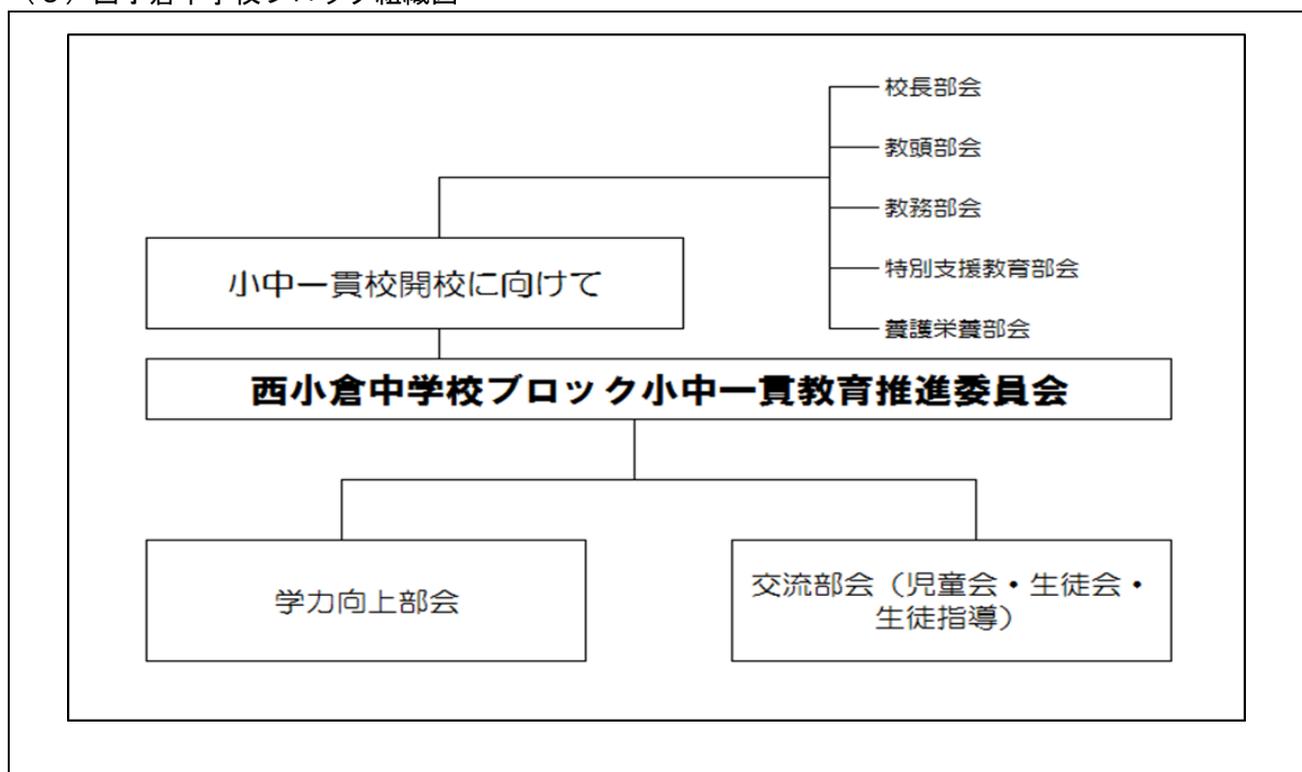
(3) 指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働

取組概要	詳細
<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同研修会 	小中の教職員で合同研修会を実施し、チーム学校として機能するために、指導方針や考え方の共有、議論を行う。

(4) 家庭・学校・地域でつくる育ちの輪

取組概要	詳細
<ul style="list-style-type: none"> ・地域、保護者への啓発活動 	・様々な取組を「小中一貫だより」のプリント配付やHP等で発信する。

(5) 西小倉中学校ブロック組織図



(6) 小中一貫教育コーディネーター (SC) (LC・・ラーニングコーディネーター)

LC・・宇治市立西小倉中学校 西尾 直樹

SC・・宇治市立西小倉小学校 堀 聡志 宇治市立南小倉小学校 岡本 奈奈

令和5年度 西小倉中学校ブロックジョイントプラン 構想図

－西小倉中・西小倉小・南小倉小－

教育目標・めざす子ども像

小中9年間を通して 地域と共に 子ども達の ゆたかな心と 確かな学力をはぐくむ

- ・ 自分の考えを 豊かな表現力で伝え合う子
- ・ 地域とつながり 思いやりの心を大切にする子
- ・ 健康に気をつけ 自らの目標に向かってがんばる子

本年度の目標・推進の方向性（重点）

「主体的・対話的で深い学び」の実現による確かな学力の育成

中学校ブロックの本年度の取組

☆9年間を見通した子どもの育ちと学びの
つながりに関わって

- ・ 主体的な学びとなる家庭学習の実施
- ・ 学習方法の共有

☆連続性のある子ども理解と生徒指導に関わって

- ・ 中学校準備講座
- ・ 生徒指導交流会
- ・ 通信の連携

☆指導や支援に磨きがかかる教職員の連携
と協働に関わって

- ・ 合同研修会の充実
- ・ 合同授業研究会の実施
- ・ 合同授業研究会後の事後研修会の実施

☆家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって

- ・ 「小中一貫教育推進ニュース」の発行、またHP
による取組の発信
- ・ 各校の「一貫教育コーナー」（掲示板）を充実
- ・ 地域懇談会の実施

☆推進体制の充実と改善（ラーニングコーディネーターの主な計画内容を記載）

- ・ 小学校での出前講座、授業補助
- ・ 児童・生徒の情報の共有
- ・ 研修会の企画、調整、実施

西宇治中学校ブロックジョイントプラン
－令和5年度 小中一貫教育推進計画－

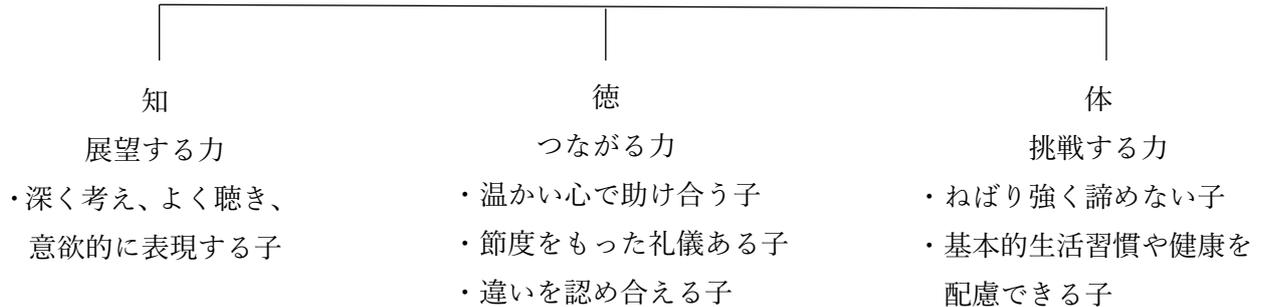
宇治市立西宇治中学校 校長 中井 良幸

宇治市立伊勢田小学校 校長 立原 隆弥

宇治市立神明小学校 校長 中村 亘宏

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

N・I・S 目標 「自立への学びと社会性の育成を推進し心豊かでたくましい人間を育てる」
目指す児童・生徒像



2 令和4年度取組の成果と課題（「取組内容」「子どもの態様」など）

【成果】

- ・小学校でICTを活用した授業を公開し、小中の教員での意見交流ができた。
- ・6年生に対して体験入学を実施することができた。（中学校生活について）

【課題】

- ・新型コロナウイルス感染症防止対策のため、教科部会を開催できず、各校交流ができなかった。

3 本年度の目標と目標に近づくための推進の方向性（核となる取組）

【目標】

「自立への学びと社会性の育成を推進し心豊かでたくましい人間を育てる」

【推進の概要】

- (1) 「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」に基づいた合同研修会及び各教科部会の充実と発展、公開授業研究会の実施
- (2) 領域部会機能の活性化
- (3) 小小連携の充実（中学校進学に向け、共通組織による実態改善）
- (4) 相互連携授業の充実

4 令和5年度小中一貫教育の到達目標に向けての各到達目標達成にかかる具体的取組

(1) 9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって

取組概要	詳細
①合同研修会	① 第3回西宇治中ブロック小中一貫教育合同研修会（10月）の公開授業（会場：伊勢田小学校）に向け、3校合同の研修会を持ち、「自ら課題を考え、探究できる児童の育成」を目指した授業の指導方法等について研修を行う。
②資料・データの整理	② 小中学校9年間に及ぶ児童生徒の教育活動に見通しを持った学習指導の方法を研修するとともに、その成果を共有し活かすことができるよう、資料・データの整理（＝「見える化」）に努める。
③宇治学	③ 副読本の活用について十分検討し、持続的・継続的、さらに現実的な計画を立てる。
④学習の手引き	④ 小中学校共、各学年における最初の授業や適切な機会を捉えた「学習の手引き」活用で、「学習の仕方指導」を実施するとともに、学習指導面における小中連携・協働を進める。

(2) 連続性のある子ども理解と生徒指導に関わって

取組概要	詳細
①小6中学校体験入学 入学生学習説明会	① 児童の小中格差に関わる不安を取り払い、スムーズに中学校生活へ移行できるよう支援する。
②朝の挨拶運動 (NISあいさつ運動)	② 毎学期、小中学校合同で取り組み、児童会・生徒会相互の交流を深める。
③打ち合わせの活性化	③ 各取組の担当者は、相互に取組の意義や実践に関する詳細について打ち合わせを行うことで取組の形骸化を避け、有効な取組としての維持継続を図る。

(3) 指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって

取組概要	詳細
①会議の設定	① ブロック校長会をはじめ各会議を適宜開催し内容の充実を図るとともに、推進計画が円滑に遂行されるよう、各会及び各部との交流、連携に努める。（特に、実務に直結するコーディネーター会議は月例開催を目処とし、全体の調整と活性化にあたる。）
②協働体制の構築	② 小中連携の諸行事における準備の手順や役割担当等を明確にし、協働体制を構築する。

(4) 家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって

取組概要	詳細
①広報紙発行（小中学校保護者、及び地域へ配布）	① 広報紙発行の取組を継続するとともに、小中一貫教育啓発掲示板の有効活用、各校学校だよりのブロック内交流、各校HP上を工夫し、広く地域に発信し理解と支援を求める。
②各地域行事への呼びかけや参加	② 各地域行事、夏休みの「地域パトロール」、西宇治オープンフェスタ等々への積極的な参加を通して、地域との連携を図り支援や協働を得る。

(5) 西宇治中学校ブロック組織図

組織項目	役職名	氏 名	職 務	学 校 名	
推進会議	ブロック校長会	中井 良幸	校長	西宇治中学校	
		立原 隆弥	校長	伊勢田小学校	
		中村 亘宏	校長	神 明小学校	
	コーディネーター会議	特別支援・教育相談部担当	横江 孝洋	ラーニングコーディネーター	神 明小学校
		生徒指導部担当	谷 健治	コーディネーター	西宇治中学校
学力充実部担当	池本 裕貴	コーディネーター	伊勢田小学校		
ブロック教頭会	特別支援・教育相談部担当	福田 健司	教頭	神 明小学校	
	生徒指導部担当	大石 充士	教頭	西宇治中学校	
	学力充実部担当	大空 幸恵	教頭	伊勢田小学校	
領域 3 部会	学力充実部会 (各校学力担当)	横山 聡美	教諭	西宇治中学校	
		(部長) 岸本 有里子	教諭	伊勢田小学校	
		大野 淳之	教諭	神 明小学校	
	生徒指導部会 (各校生徒指導担当)	(部長) 谷 健治	教諭	西宇治中学校	
		佐々木 一哉	教諭	伊勢田小学校	
		佐藤 昌樹	教諭	神 明小学校	
	特別支援・教育相談部会 (各校特支・教相担当)	特支 村山 郁子	教諭	西宇治中学校	
		教相 太田 夕貴	教諭 養護教諭	伊勢田小学校	
		(部長) 特支 阿部 ちひろ	教諭	神 明小学校	
			教相 渡辺 直人		

(6) 小中一貫教育コーディネーター (SC) (LC・・・ラーニングコーディネーター)

LC・・・宇治市立神明小学校 横江 孝洋

SC・・・宇治市立伊勢田小学校 池本 裕貴、 宇治市立西宇治中学校 谷 健治

令和5年度 西宇治中学校ブロックジョイントプラン 構想図

—西宇治中・伊勢田小・神明小—

教育目標・めざす子ども像

ブロック小中一貫教育目標 N・I・S目標

「自立への学びと社会性の育成を推進し心豊かでたくましい人間を育てる」

めざす子ども像

- 知「展望する力」：・深く考え、よく聴き、意欲的に表現する子
- 徳「つながる力」：・温かい心で助け合う子、節度をもった礼儀ある子、違いを認め合える子
- 体「挑戦する力」：・ねばり強く諦めない子、基本的な生活習慣や健康を配慮できる子

本年度の目標・推進の方向性（重点）

主体的・対話的で深い学び、及び進路を見据えた学力向上の取組

- (1) 「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」に基づいた合同研修会及び各教科部会の充実と発展、公開授業研究会の実施
- (2) 領域3部会機能の活性化
- (3) 小中連携の充実（中学校進学に向け、共通組織による実態改善）
- (4) 相互連携授業の充実

中学校ブロックの本年度の取組

☆9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって

- ・ブロック合同研修会（年回3回）
- ・宇治学の副読本の活用
- ・9年間の学習指導の見える化

☆連続性のある子ども理解と生徒指導に関わって

- ・生徒指導部会の実施（年回3回）
- ・小中連絡会の実施
- ・家庭学習の充実

「学習の手引き」の活用を通して

☆指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって

- ・中学体験入学の実施
- ・朝の挨拶運動(毎学期)
- ・入学生対象学習説明会(中学校教員による6年生への出前説明会)

☆家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって

- ・広報紙発行
- ・小中一貫教育啓発掲示板の活用
- ・各校HP上の工夫
- ・各地域行事の参加

☆推進体制の充実と改善（ラーニングコーディネーターの主な計画内容を記載）

- ・構築した体制を活用した学力向上への取組
- ・小中一貫教育推進に係る中学校ブロック各校内の連絡・調整
- ・小中一貫教育の取組の広報

南宇治中学校ブロックジョイントプラン

ー令和5年度 小中一貫教育推進計画ー

宇治市立南宇治中学校

校長 小野 由美子

宇治市立西大久保小学校

校長 西 祐 子

宇治市立平盛小学校

校長 浦 田 雅 彦

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

○ブロック小中一貫教育目標

「夢や希望を持ち、未来をたくましく生きぬく児童生徒の育成」

○めざす子ども像

「夢や希望を持った、未来をたくましく生きぬく子ども」

2 令和4年度取組の成果と課題（「取組内容」「子どもの態様」など）

【成果】

- ・夏季合同研修会の中で、家庭環境に恵まれない子どもが抱える問題や課題とその支援について共通理解を図ることができた。
- ・令和4年度から新たな組織体制で動き出すことができた。
- ・コロナ禍で進められていなかった三校の教職員の交流や、児童生徒間での交流ができた。

【課題】

- ・LCが各学校を参観する機会を十分に持つことができなかった。そのため、LCを中心に3校のコーディネーターが月に1度の授業参観の機会を設けることで実態把握に努める。
- ・学力の向上などに関する三校が統一した実践を十分に取り組むことができなかった。

3 本年度の目標と目標に近づくための推進の方向性（核となる取組）

【目標】

主体的に学び・活動できる児童・生徒の育成 ～3校のつながりを意識して～

【推進の概要】

「まなび部」主体的に学習に向かう児童生徒の育成

- ・読む力・書く力の育成（3校共通の取組に向けて）
- ・基礎基本を大切にした短時間学習の有効的な活用の仕方
- ・手帳を活用した自己調整力の育成と家庭学習の在り方について

「つながり部」児童生徒の繋がりを生かした小中連携

- ・児童会生徒会の交流
- ・授業や特別活動での小中、小小の児童生徒間での交流

「りかい部」個別の支援についての情報共有

- ・児童生徒の実態交流
- ・個別の支援の在り方について

4 令和5年度小中一貫教育の到達目標に向けての各到達目標達成にかかる具体的取組

（1）9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながり

取組概要	詳細
【まなび部】 学力テストの分析	各校の府学力学習状況調査や全国学力学習状況調査を分析し、児童生徒に適した課題や活用の仕方などを考える。

(2) 連続性のある子ども理解と生徒指導

取組概要	詳細
【りかい部】 各校での支援についての交流	教室での個別の支援や通級指導教室、別室登校等に関わる児童生徒についての交流。

(3) 指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働

取組概要	詳細
【全体会・三部会】 年4回の全体会、三部会での研修	三校に共通する課題を見つけ、全体会や夏季研修会、三部会の中で研修・協議を進める。

(4) 家庭・学校・地域でつくる育ちの輪

取組概要	詳細
【つながり部】 児童会・生徒会を中心とした交流活動の取組	これまで行ってきた「清掃ボランティア活動」や「小中合同あいさつ運動」、「部活動体験」等の取組に加え、児童会、生徒会が直接交流する機会を設けることで、より主体的に活動できる児童生徒の育成を目指す。

(5) 南宇治中学校ブロック組織図

推進委員会 ：校長・教頭・教務（コーディネーター） 9名		
①方針策定 ②年度のテーマの策定 ③各部の方向性 ④組織運営機能		
コーディネーター会 ：教務 3名		
①調整機能 ②テーマに基づいて各部をコーディネート ③進行管理		
まなび部 担当：LC 近藤(西大久保小)	つながり部 担当：C 笹田(南宇治中)	りかい部 担当：C 福田(平盛小)
テーマに基づいて児童生徒の「学習」の話を中心に、展開する。 授業・課題、宿題など具体的に行動できること	テーマに基づいて児童生徒の「特別活動・交流」について、展開する。 学校生活の質の向上のためになど具体的に行動できること	テーマに基づいて児童生徒の「支援・生徒指導」について、展開する。 困っている児童生徒に対しての支援の在り方のことなど具体的に行動できること

(6) 小中一貫教育コーディネーター (SC) (LC・・・ラーニングコーディネーター)

LC・・・宇治市立西大久保小学校 近藤 晋平
SC・・・宇治市立南宇治中学校 笹田 隆広
宇治市立平盛小学校 福田 祐香子

☆ジョイントプランは組織図を含めて A4 用紙 2 葉まで。

令和5年度 南宇治中学校ブロックジョイントプラン 構想図
—南宇治中・平盛小・西大久保小—

教育目標・めざす子ども像

「夢や希望を持ち、未来をたくましく生きぬく児童生徒の育成」

本年度の目標・推進の方向性（重点）

「主体的に学び・活動できる児童・生徒の育成 ～三校のつながりを意識して～」

中学校ブロックの本年度の取組

☆9年間を見通した子どもの育ちと学びの
つながりに関わって

- ・読む力・書く力の育成（3校共通の取組に
向けて）
- ・基礎基本を大切にされた短時間学習の有効的
な活用の仕方の交流

☆連続性のある子ども理解と生徒指導に関わって

- ・清掃ボランティア
- ・児童会、生徒会交流
- ・あいさつ運動
- ・部活動体験
- ・中文拳体験、帰国児童理解教育

☆指導や支援に磨きがかかる教職員の連携
と協働に関わって

- ・学習に参加しやすい支援の共通理解
- ・宇治学の発表交流

☆家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって

- ・清掃ボランティアやあいさつ運動への保護者・地
域の連携
- ・学校だよりや学校HPでの広報

☆推進体制の充実と改善（ラーニングコーディネーターの主な計画内容を記載）

- ・毎月のコーディネーター会の開催（コーディネーター会場を3校持ち回りにし、コーディネーター
3人での授業参観）

広野中学校ブロックジョイントプラン
—令和5年度 小中一貫教育推進計画—

宇治ひろの学園	宇治市立広野中学校	校長	藤本 いずみ
	宇治市立大久保小学校	校長	姫野 裕美子
	宇治市立大開小学校	校長	井上 智子

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

<教育目標>

夢や希望を持って未来を切り拓ける児童生徒の育成

<9年間で育てたい力（めざす児童生徒像）>

自ら学び考える力 豊かな人間関係を築ける力

健やかな体で粘り強くやり抜く力 自分の生き方を求めていく力

2 令和4年度取組の成果と課題（「取組内容」「子どもの態様」など）

【成果】

- ・3校で共同の研究テーマ「伝え合う」ことに焦点化した取組をした。各校の状況及び効果的であったことを交流し、各校に生かせるようにした。
- ・学習意欲の向上についての具体的方策を各学年で検討し、実施することができた。
- ・感染症対策を施した上で、中学校1年生による小学校1年生への紙芝居読み聞かせや、児童会と生徒会の交流であるHOT-MEETINGを実施し、児童生徒が交流する事業が実施できた。
- ・様々な交流行事に関する紹介を、各校の学校だよりやホームページなどに掲載し発信した。

【課題】

- ・児童生徒が実際に顔を合わせて交流することが難しかった。
- ・授業を参観する各校との交流ができなかった。
- ・自由に意見交換できるような雰囲気づくりや、コミュニケーションを通して学ぶ楽しさを意識した教育活動を続けていく必要がある。

3 本年度の目標と目標に近づくための推進の方向性（核となる取組）

【目標】

- ・「学びの意欲を高める」
積極的に学びに向かう力（非認知能力）の育成を目指す。

【推進の概要】

- ・「学びの意欲を高める」をテーマに、3部会で話し合い、非認知能力の育成を視野に入れた学習環境づくりを各校の目標や実態に合わせて実践する。
- ・基礎学力定着のための補充学習を継続する。
- ・実践内容と結果をブロックで交流・協議し、学園全体としての意識向上につなげる。

4 令和5年度小中一貫教育の到達目標に向けての各到達目標達成にかかる具体的取組

(1) 9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながり

取組概要	詳細
基礎学力の定着のための教職員間の連携強化及び、学びに向かう力の涵養に向けた体験学習の充実	<ul style="list-style-type: none">・よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す「宇治学」の充実・学園児童生徒の学力充実を目指し、各部会の組織的な活動の実施・共通課題の作成

(2) 連続性のある子ども理解と生徒指導

取組概要	詳細
小中連携を基盤とした子どもの理解と生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none">・3校の生徒指導の交流(6月・11月・1月) (問題事象の交流や傾向の分析など)・少年補導地域懇談会での状況交流・長期休業中の生活のきまりについて交流・HOT-MEETING(3校合同児童生徒会)の実施・福島ひまわりプロジェクトの実施・小6の中学校体験学習での小小交流事業・中学1年生による小学校1年生への紙芝居読み聞かせ

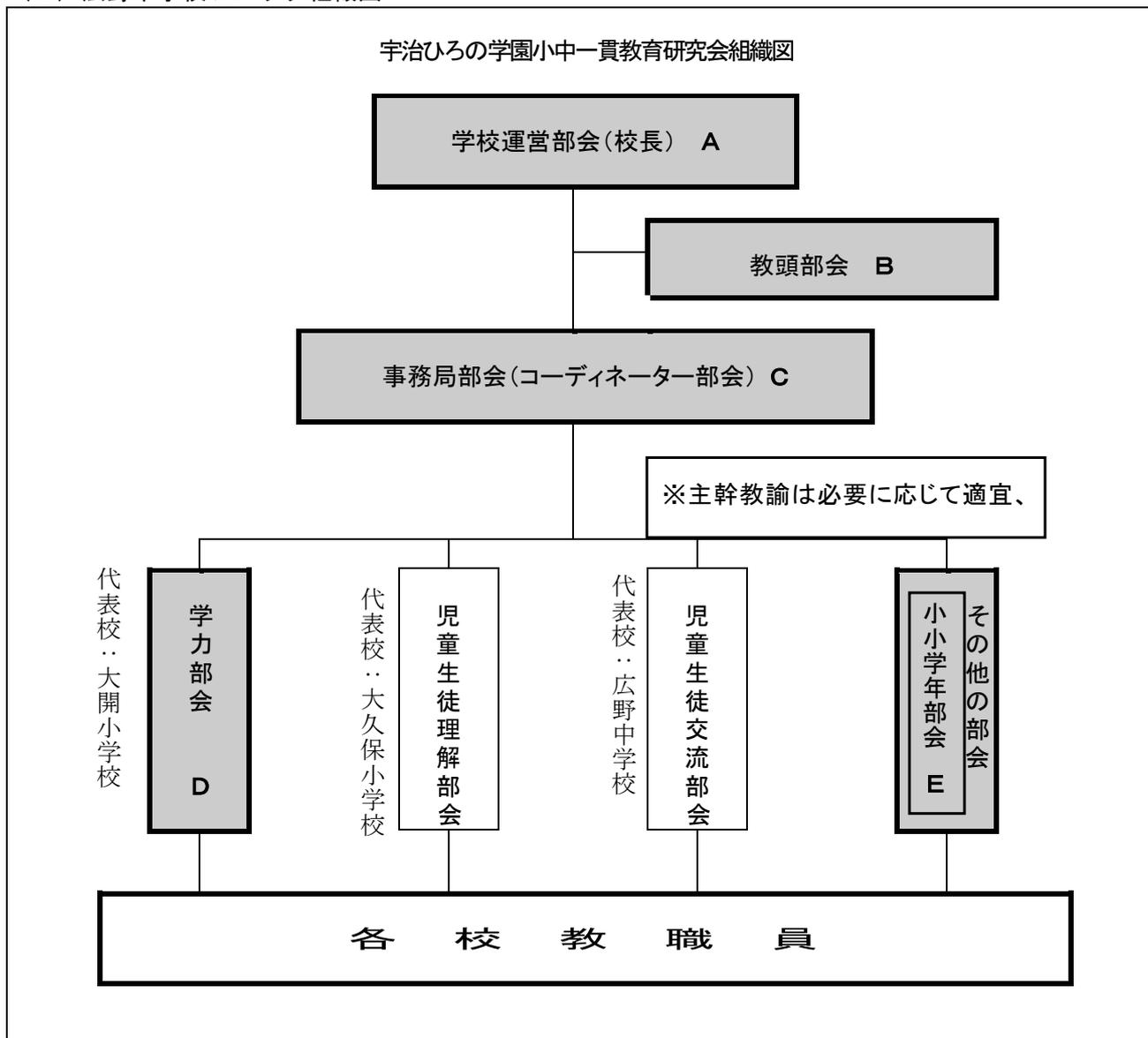
(3) 指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働

取組概要	詳細
教職員の資質向上に向けた取組の充実	<ul style="list-style-type: none">・宇治ひろの学園総会の実施による小中一貫教育の取組周知・3校での夏季合同研修の実施・大久保小と大開小の小小連携の計画及び実施(授業研の交流と授業での交流)

(4) 家庭・学校・地域でつくる育ちの輪

取組概要	詳細
定期的な情報発信と交流の機会充実	<ul style="list-style-type: none">・HOOP(宇治ひろの学園小中一貫教育だより)の保護者への配付・各校の学校だよりでの紹介やホームページの活用・3校巡回作品展示の保護者向け公開・小6の中学校体験学習の保護者参観

(5) 広野中学校ブロック組織図



(6) 小中一貫教育コーディネーター (SC) (LC・・・ラーニングコーディネーター)

ラーニングコーディネーター・・・ 宇治市立大開小学校 宗 直人
 小中一貫教育コーディネーター・・・ 宇治市立大久保小学校 天野 陽
 宇治市立広野中学校 福田 幸祐

令和5年度 広野中学校ブロックジョイントプラン 構想図

－広野中・大久保小・大開小－

教育目標・めざす子ども像

<教育目標>

夢や希望を持って未来を切り拓ける児童生徒の育成

<9年間で育てたい力（めざす児童生徒像）>

自ら学び考える力 豊かな人間関係を築ける力

健やかな体で粘り強くやり抜く力 自分の生き方を求めていく力

本年度の目標・推進の方向性（重点）

【目標】

- ・「学びの意欲を高める」

積極的に学びに向かう力（非認知能力）の育成を目指す。

【推進の概要】

・「学びの意欲を高める」をテーマに、3部会で話し合い、非認知能力の育成を視野に入れた学習環境づくりを各校の目標や実態に合わせて実践する。

中学校ブロックの本年度の取組

☆9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって

《基礎学力の定着》

- ・学園児童生徒の学力向上を目指した各部会の組織的な活動
- ・問題解決的学習の資質・能力を育成する「宇治学」の充実
- ・共通課題の作成

☆連続性のある子ども理解と生徒指導に関わって

《学びの基盤の醸成》

- ・3校の生徒指導の交流(6月・11月・1月)
(問題事象の交流や傾向の分析など)
- ・少年補導地域懇談会での状況交流
- ・長期休業中の生活のきまりについて交流
- ・HOT-MEETING(3校合同児童生徒会)の実施
- ・福島ひまわりプロジェクトの実施
- ・小6の中学校体験学習での小小交流事業
- ・中学1年生による小学校1年生への紙芝居読み聞かせ

☆指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって

《教職員の資質向上》

- ・総会の実施による小中一貫教育の取組周知
- ・3校での夏季合同研修の実施
- ・小小連携の計画及び実施(授業研の交流と授業での交流)

☆家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって

《学びの場の拡大》

- ・H00P(宇治ひろの学園小中一貫教育だより)の保護者への配付
- ・各校の学校だよりでの紹介やホームページの活用
- ・3校巡回作品展示の保護者向け公開
- ・小6の中学校体験学習の保護者参観

☆推進体制の充実と改善（ラーニングコーディネーターの主な計画内容を記載）

- ・ブロック校長会議(学校運営部会)の実施及び教頭部会の開催
- ・コーディネーター会議(事務局部会)の定期的な実施(月1回以上)
- ・学園児童生徒の学力充実を目指し、各部会の組織的な活動の実施

東宇治中学校ブロックジョイントプラン
ー令和5年度 小中一貫教育推進計画ー

宇治市立東宇治中学校 校長 山根 徳子
宇治市立岡屋小学校 校長 石原 和彦
宇治市立南部小学校 校長 杉本 俊恵
宇治市立三室戸小学校 校長 今井 雅世

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

教育目標

「命を輝かす人間」

めざす児童・生徒像

「自ら学び学習する児童・生徒」

「思いやりのある児童・生徒」

「たくましく生きる児童・生徒」

「健康や安全を考える児童・生徒」

2 令和4年度取組の成果と課題（「取組内容」「子どもの態様」など）

【成果】

- ・非認知能力の向上に向けて、岡山大学の中山准教授に協力をいただき、コーディネーターが中心となって、夏季研修会や秋の合同授業研を実施できた。
- ・ブロックの小・中学校の授業改善や児童生徒の非認知能力の向上のため、特に夏季研修会で生活状況調査に焦点を当てた分析を行い、共通の認識を持つことができた。
- ・定期テスト対策(小6)による小中の接続強化ができた。
- ・家庭学習の手引き・スクールライフサポートブックによる家庭学習習慣・生活習慣の確立を図ることができた。

【課題】

- ・児童生徒の実態把握、特別支援教育、生徒指導の交流の機会が少なかったため、来年度以降は工夫が必要である。
- ・本ブロック児童生徒の学力課題や学力の基盤となる生活課題に迫る、家庭・地域と連携した取組を十分に行うことができなかった。
- ・コロナの影響等もあり、地域・PTA(育友会)行事はできなかった。
- ・各校のアクションプランと連動させた学力の充実・向上の取組については、各校での研究にとどまった。

3 本年度の目標と目標に近づくための推進の方向性（核となる取組）

【目標】

これまでの小中連携・小中一貫教育の成果と課題を踏まえた取組を推進しながら、小中一貫教育の基本である「義務教育9年間で、生きて働く学力や生きる力を身に付けさせるための系統的・統一的な指導を実現する」という視点で、日々の指導の充実を図りながら、取組の点検・評価・改善を図る。

【推進の概要】

本ブロックの児童生徒の実態や教育の方向性・動向を踏まえた取組の工夫・改善を積極的に進める。その取組の一つとして、宇治市の「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」の指標について、ブロックとしての分析を行い、本ブロック児童生徒の課題である「ことばの力」「主体的な学習態度」「対話的な深い学び」の充実と関連させた具体的な取組を推進する。

また、非認知能力を育む基礎となる幼稚園と小学校の接続をより良くするための研究を進めるとともに、非認知能力の向上に向けた授業研究を進める。

4 令和5年度小中一貫教育の到達目標に向けての各到達目標達成にかかる具体的取組

(1) 9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながり

取組概要	詳細
合同研究授業や相互授業参観を含む小中合同研修会の実施	「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を積極的に進め、その中に、ことばの力を高める視点を加え、日常の授業や家庭学習、小中一貫教育の様々な取組と関連させ、生きて働く学力や生きる力を高めるための指導の充実・向上を図る。また、非認知能力を育む基礎となる幼稚園と小学校の接続をより良くするための研究を進めるとともに、非認知能力の向上に向けた授業研究を進める。

(2) 連続性のある子ども理解と生徒指導

取組概要	詳細
専門部会の実施	学力面だけでなく、生徒指導部会、特別支援・教育相談部会を設定し、学校ごとの取組や児童の様子を交流するとともに、中学校へスムーズな接続ができるように一致した取組を進める。

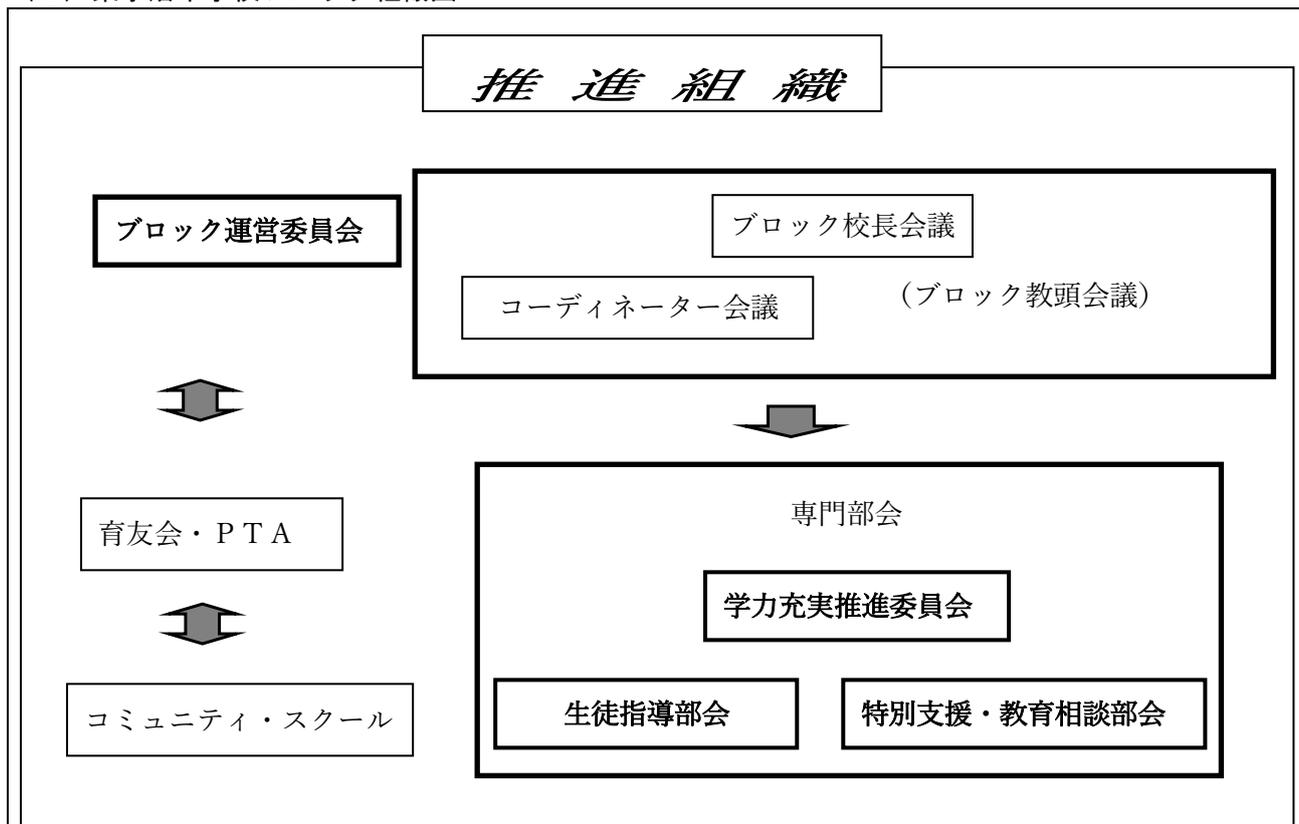
(3) 指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働

取組概要	詳細
相互授業参観・合同研究授業	相互授業参観や合同研究授業を通して、教職員の連携と協働を進め、指導力を高める。
職員写真の掲示	ブロックの小中学校の職員写真を職員室内に掲示することで、連携・協働を進めやすくする。

(4) 家庭・学校・地域でつくる育ちの輪

取組概要	詳細
小中一貫教育だより等による広報	小中一貫教育だよりを発行したり、各校の学校便り等で小中一貫教育の取組を紹介したりして、積極的に情報発信を行う。
家庭学習習慣・生活習慣の確立・充実の取組	ブロック共通の「家庭学習の手引き」の活用を進めながら、児童生徒の実態に応じた家庭学習習慣・生活習慣を高める取組を進める。

(5) 東宇治中学校ブロック組織図



※組織分担

- ブロック校長会議** ブロック小中一貫教育推進の方向性の提示
- ブロック教頭会議** ブロック小中一貫教育の推進・調整、地域・PTA 育友会との連携
- コーディネーター会議** 小中一貫教育推進(学力の充実向上)に関わる調整、
取組の企画・運営・進行管理

(6) 小中一貫教育コーディネーター (SC) (LC・・ラーニングコーディネーター)

LC・・・宇治市立南部小学校 玉井 耕平

SC・・・宇治市立東宇治中学校 竹内 健 宇治市立岡屋小学校 立野 烈司

宇治市立三室戸小学校 赤松 幸子

令和5年度 東宇治中学校ブロックジョイントプラン 構想図

—東宇治中・岡屋小・南部小・三室戸小—

教育目標・めざす子ども像

教育目標	「命を輝かす人間」		
めざす児童・生徒像	「自ら学び学習する児童・生徒」	「思いやりのある児童・生徒」	
	「たくましく生きる児童・生徒」	「健康や安全を考える児童・生徒」	

本年度の目標・推進の方向性（重点）

- 小中一貫教育実施6年間の成果と課題を踏まえた取組を推進しながら、小中一貫教育の基本である「義務教育9年間で、将来にわたって生きて働く学力や生きる力を身に付けさせるための系統的・統一的な指導を実現する」という視点で、日々の指導の充実を図りながら、取組の点検・評価・改善を進める。
- ブロック校長会議やコーディネーター会議を定期的に行い、小中一貫教育の方向性を全体に示しながら、具体的な取組を推進する。ラーニングコーディネーターはその調整役を果たし、ブロック児童生徒の学力充実・向上の様々な取組を推進する。
- 本ブロックの児童生徒の実態や教育の方向性・動向を踏まえた取組の工夫・改善を積極的に進める。その取組の一つとして、宇治市の「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」の指標について、ブロックとしての分析を行い、本ブロック児童生徒の課題である「ことばの力」「主体的な学習態度」「対話的な深い学び」の充実と関連させた具体的な取組を推進する。また、非認知能力の向上に向けた授業研究を進める。

中学校ブロックの本年度の取組

☆9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって

- スクールライフサポートブック配布(小学6年)
- 先スタ(中学入学前の学習)の配付(小学6年)
- 小学6年生の中学校体験入学(11/8)
- 小中連携教員による外国語活動指導(小学6年)
- 東宇治中入学保護者説明会(11/30)
- 小中連絡会(5/22・12月・2月)
- 中学学校便りを小学6年生に配布
- 授業スタンダードの積極的活用
- 定期テスト対策(小学6年)

☆連続性のある子ども理解と生徒指導に関わって

- 小学6年生の中学校体験入学(11/8)
- 中学2年生の小学校での職場体験(2学期)
- 児童会・生徒会協同の取組
- 中学生の美術作品巡回展示(2学期)
- 花植ボランティアによるプランター贈呈
- 地域行事での交流

☆指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって

- 小中合同研修会(6/14・8/22・11/15)
- 小中合同研究授業(11/15 会場:南部小)
- 相互授業参観
 - ・小学校から中学校授業参観(6/14)
 - ・中学校から小学校授業参観(6/20)
- 教職員広報の発行
- 4校学校便りを教職員へ配布
- 中学1年ふりスタへの小学校教員支援
- 東宇治中ブロック児童生徒の学力分析

☆家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって

- 小中一貫教育便りの発行
- 「家庭学習の手引き」の配布
- 小中一貫教育コーナー(掲示板)の設置
- 地域行事への積極的参画

☆推進体制の充実と改善(ラーニングコーディネーターの主な計画内容を記載)

- 構築した体制を活用した学力向上への取組(学力分析・目標設定シートの活用等)
- 小中一貫教育推進に係る企画・立案(合同研修会・相互授業参観等)
- 小中教育推進に係る中学校ブロック各校内の連絡・調整(コーディネーター会議等)
- 児童生徒の実態把握(各校訪問)
- 小中一貫教育の取組の広報、保護者・地域との連携(HP・小中一貫教育だより等)

木幡中学校ブロックジョイントプラン
—令和5年度 小中一貫教育推進計画—

宇治市立木幡中学校	校長	武田	義博
宇治市立御蔵山小学校	校長	吉村	祥代
宇治市立木幡小学校	校長	藤田	祥尚
宇治市立笠取小学校	校長	杉本	清彦
宇治市立笠取第二小学校	校長	大川	透

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

ブロック小中一貫教育目標

故郷（ふるさと）で夢や希望をはぐくみ、未来を切り拓く児童・生徒
めざす子ども像

- ①意欲を持ち、学び続ける児童・生徒（知）
- ②思いやりにあふれ、ともに伸びる児童・生徒（徳）
- ③健やかな心と体をもった児童・生徒（体）
- ④ちがいを認め、命を大切にす児童・生徒（人権）
- ⑤ふるさとを愛し、つながりを大切にす児童・生徒（地域）

2 令和4年度取組の成果と課題（「取組内容」「子どもの態様」など）

【成果】

- ・小中合同研修会で学力の充実・向上を図るために、教科ごとにテーマ（課題）を設定し、それについて実践、交流する予定でしたが、6月・8月の合同研修会が中止となったため、各教科のテーマをラーニングコーディネーターが中心となり設定し、第3回小中合同研修会で実践の交流と来年度のテーマ設定を行い、主体的・対話的な授業づくりや学習指導要領における評価、評定についてより理解を深めることができた。
- ・LCと各小学校のコーディネーターを中心に小中一貫に関わる取組の推進が図れた。

【課題】

- ・主体的・対話的な授業づくりや学習指導要領における評価、評定の具体的な実践をさらに小中で交流し、考え推進していく。
- ・小中合同研修会をコロナ禍でも実施できるように実施方法を検討する。
- ・学力充実・向上のため、目標設定シートを通してブロックの教職員のさらなる共通理解が必要である。（効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン）

3 本年度の目標と目標に近づくための推進の方向性（核となる取組）

【目標】

- ・学習指導要領（評価を含む）をふまえて、学力向上のための主体的・対話的な授業づくりに結びつく研修を木幡中ブロック全体で行い、さらに深める。
- ・3回の小中合同研修会において、アクションプラン〔セカンドステージ〕の理解を深め、ブロックとしての共通認識のもと教育活動を推進する。

【推進の概要】

- ・ラーニングコーディネーターを中心に、「やましる授業スタンダード」や「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」に基づいた学力向上のための主体的、対話的な授業づくりを木幡中ブロック全体で行う。

4 令和5年度小中一貫教育の到達目標に向けての各到達目標達成にかかる具体的取組

(1) 9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながり

取組概要	詳細
9年間を見通しての「ことばの力」の育成	8つの教科部会（国語、生活・社会、算数・数学、生活・理科、芸術【図工, 美術, 技術, 家庭, 音楽】、保健体育、外国語・英語、道徳）の協議、交流を通して、小中の系統的、継続的な指導を進める。

(2) 連続性のある子ども理解と生徒指導

取組概要	詳細
切れ目のない生徒理解と小中が連携した生徒指導の推進。	3つの連絡会（学力充実いしずえ、児童生徒理解、健康安全）を通して、小中での生徒交流を深め、切れ目のない生徒指導・支援を推進する。

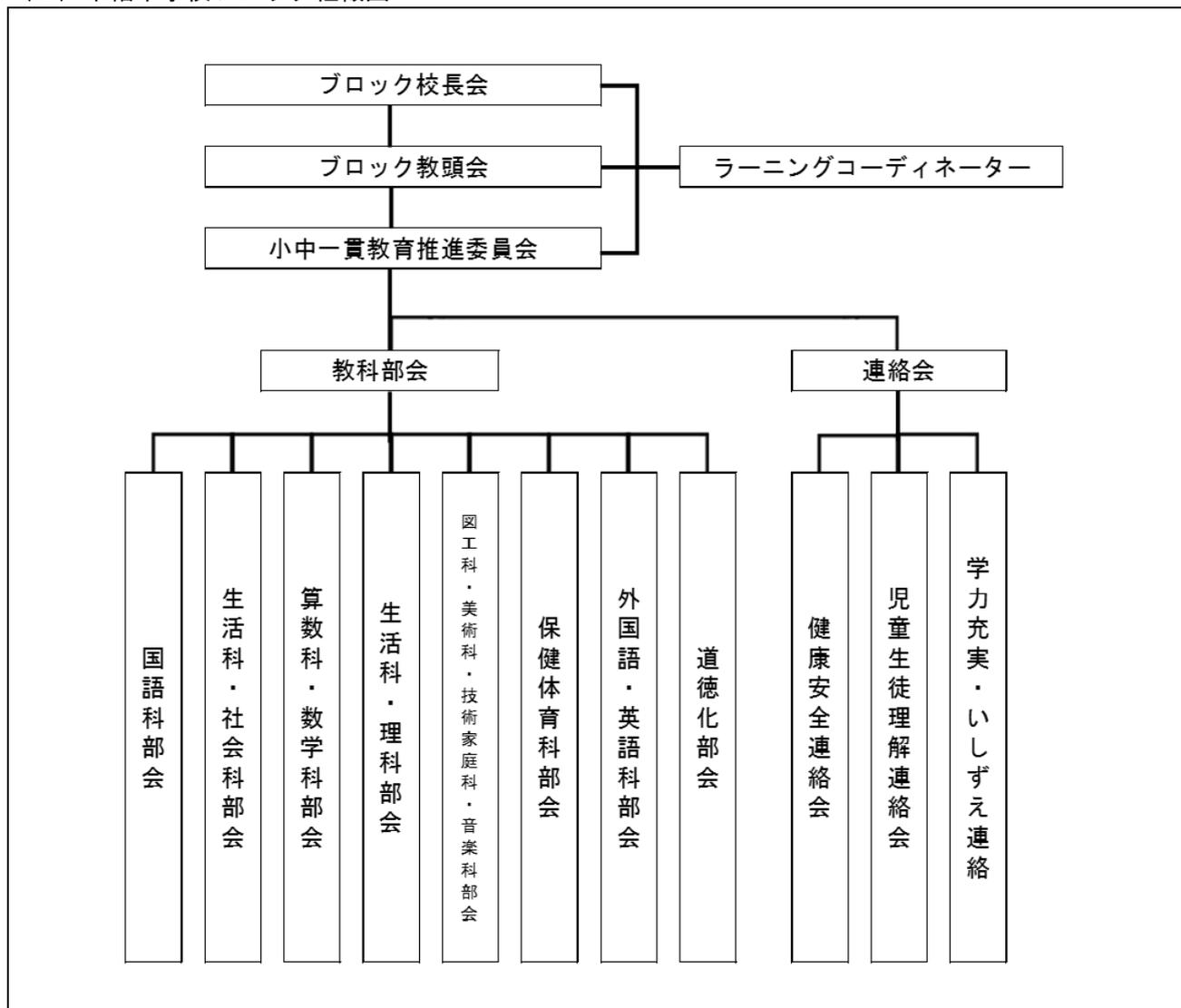
(3) 指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働

取組概要	詳細
夏季研修	特別支援教育をテーマとした講演を依頼。C層・D層の生徒理解や、効果的な指導や支援等についての理解を深める。

(4) 家庭・学校・地域でつくる育ちの輪

取組概要	詳細
<ul style="list-style-type: none">・地域交流の活性・HPの活用・学校だより掲示・保護者説明会	<ul style="list-style-type: none">・おもろいやんか木幡への参加・HPに小中一貫教育の取組をアップし、取組の啓発を図る。・各校の学校だよりの掲示や、中学校の「生活だより」を小学校へ配布する。・新入生保護者説明会を11月に木幡中で行う。・小学校の懇談会で中学校における進路指導の説明会を行う。

(5) 木幡中学校ブロック組織図



(6) 小中一貫教育コーディネーター (SC) (LC・・ラーニングコーディネーター)

LC・・宇治市立木幡中学校 谷口 弘

SC・・宇治市立木幡小学校 飯田 隆志 宇治市立御蔵山小学校 小出 幸樹

宇治市立笠取小学校 杉本 和也 宇治市立笠取第二小学校 赤野 良英

☆ジョイントプランは組織図を含めてA4用紙3葉まで。

令和5年度 木幡中学校ブロックジョイントプラン 構想図

ー木幡中・御蔵山小・木幡小・笠取小・笠取第二小ー

教育目標・めざす子ども像

教育目標 故郷（ふるさと）で夢や希望をはぐくみ、未来を切り拓く児童・生徒

めざす子ども像

- ①意欲を持ち、学び続ける児童・生徒（知）
- ②思いやりにあふれ、ともに伸びる児童・生徒（徳）
- ③健やかな心と体をもった児童・生徒（体）
- ④ちがいを認め、命を大切にする児童・生徒（人権）
- ⑤ふるさとを愛し、つながりを大切にする児童・生徒（地域）



本年度の目標・推進の方向性（重点）

【目標】

・学力向上のための主体的、対話的な授業づくりに結びつく実践的な内容の研修を木幡中ブロック全体で行う。

【推進の方向性（重点）】

・3回の小中合同研修会での教科部会と連絡会を通して小中の系統的、継続的な連携を深める。
・特別支援教育の視点による児童生徒理解を深めるための研修を行う。
・各校のホームページを活用し、児童生徒、保護者、教職員、地域への啓発活動を進める。



中学校ブロックの本年度の取組

☆9年間を見通した子どもの育ちと学びの
つながりに関わって

⇒8つの教科部会の協議、交流を通して、小中の系統的、継続的な指導を進め、「ことばの力」の育成を目指す。

☆連続性のある子ども理解と生徒指導に関わって
⇒3つの連絡会（学力充実いしずえ、児童生徒理解、健康安全）を通して、小中での児童生徒交流を深め、切れ目のない生徒指導・支援を推進する。

☆指導や支援に磨きがかかる教職員の連携
と協働に関わって

⇒特別支援教育をテーマとした講演での研修を実施し、児童生徒理解に基づく効果的な指導や支援等についての理解を深める。

☆家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって
⇒・地域青少協の取組への参加・協力。
・ホームページに小中一貫教育の取組をアップすることによる取組の啓発
・各校の学校だよりの校内掲示
・新入生保護者説明会の実施
・小学校の懇談会で、「中学校における進路指導」の説明会を実施
・小学校・中学校で「家庭学習の手引き」の配付

☆推進体制の充実と改善（ラーニングコーディネーターの主な計画内容を記載）

・ラーニングコーディネーターを中心に、「やましろ授業スタンダード」や「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」を活用した、主体的、対話的な授業づくりを木幡中ブロック全体で取り組み学力向上を図る。年間3回の小中合同研修会を通して、小中学校の系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実を図る。
・各学校のコーディネーター間での連携を密にとり、各校の状況を共有する。

黄檗中学校ブロックジョイントプラン
—令和5年度 小中一貫教育推進計画—

宇治黄檗学園
宇治市立黄檗中学校
宇治市立宇治小学校
校長 安田 善一

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

たかく すずしく たくましく

- ① 高い志を持って、学びの道を究める人(確かな学力)
- ② さわやかな心、優しい心を持った人(豊かな人間性・社会性)
- ③ 強い志を持って、人生を切り開く人(意欲や情熱・健康な体)

2 令和4年度取組の成果と課題(「取組内容」「子どもの態様」など)

【成果】

- ・京都府学力診断テストや全国学力状況調査のデータから課題を明らかにし、具体的な改善方法について共有することができた。
- ・小中別の学園会が組織され、小学生のリーダーが活躍する場面が増えた。

【課題】

- ・授業づくり、学習評価など小中学校合同での研修の持ち方を検討する。
- ・円滑な学校運営ができるよう、会議設定の調整や会議内容の精選等をさらに進める。
- ・常に小中学校間の連携、協議を進め、指導の一貫を図る。

3 本年度の目標と目標に近づくための推進の方向性(核となる取組)

【目標】

- ・課題解決型学習を中心とした研究の推進
- ・課題解決型学習を手段とした認知能力と非認知能力の一体的な育成(小)
- ・教科等横断的な課題解決型学習による論理的思考力の育成(中)

【推進の概要】

- ・課題解決型学習を手段とした認知能力と非認知能力の一体的な育成の推進
- ・児童生徒が意欲を持って取り組める家庭学習の実施

4 令和5年度小中一貫教育の到達目標に向けての各到達目標達成にかかる具体的取組

(1) 9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながり

取組概要	詳細
課題解決型学習	・各教科領域の学びをつなげる課題解決型学習の実施 ・児童生徒が意欲を持って取り組める家庭学習の実施

(2) 連続性のある子ども理解と生徒指導

取組概要	詳細
生徒指導	・9年間の継続的な生徒指導を進めるための小中での課題の共有化

(3) 指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働

取組概要	詳細
・ 小中連絡会 ・ 小中合同夏季研	・ 小中連絡会の開催、小中の現状把握、相互理解 ・ 表現力、データ活用能力の育成。学力分析の方法 ・ 「絆の作り手育成プログラム」についての研修の実施

(4) 家庭・学校・地域でつくる育ちの輪

取組概要	詳細
コミュニティ・スクール	・ 計画的な学校運営協議会開催による小中一貫教育の状況確認 ・ ホームページ等を活用した、学園全体の取組の積極的な広報活動 ・ 各教科、クラブ活動等における学校ボランティアの活用

(5) 黄檗中学校ブロック組織図

別紙参照

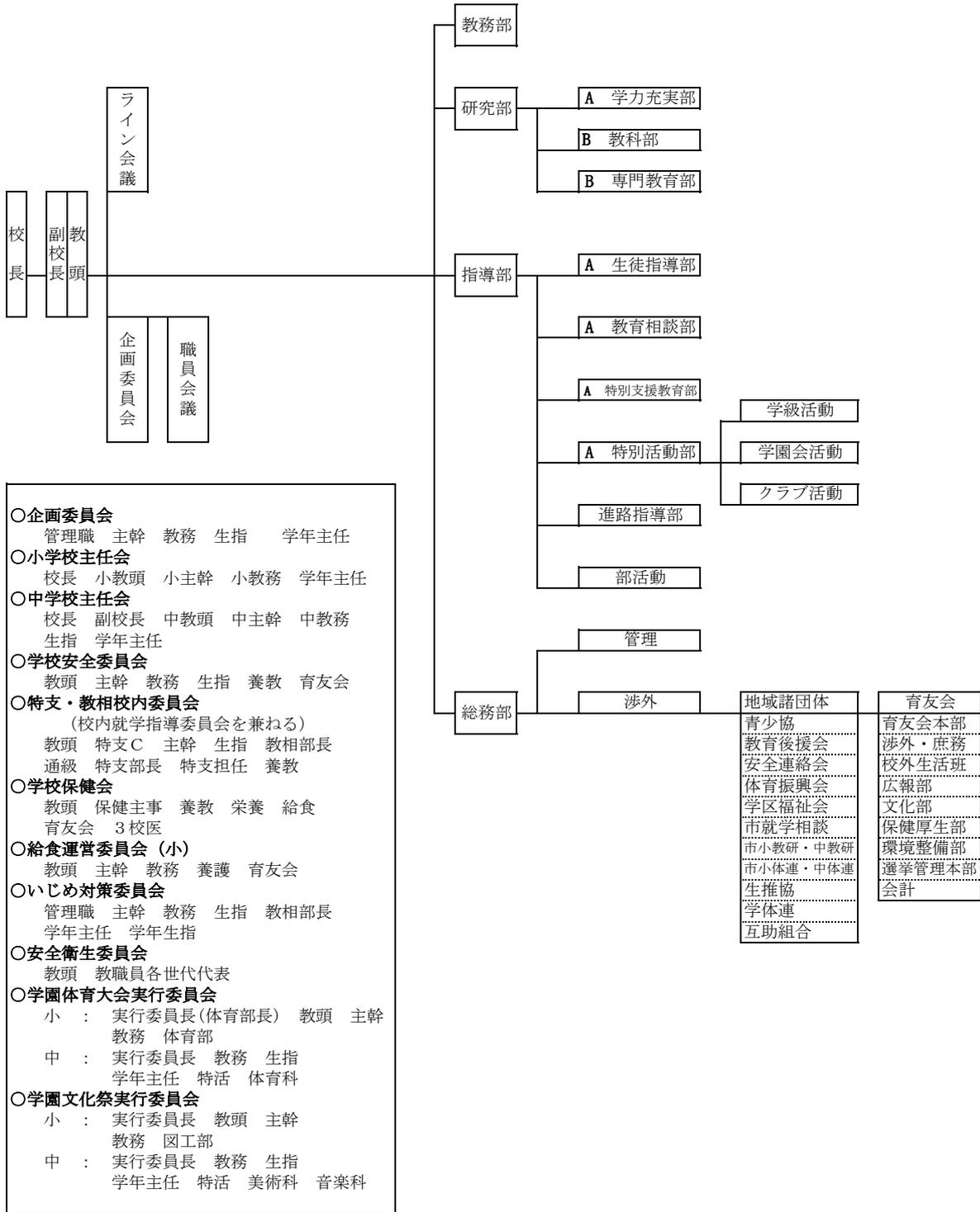
(6) 小中一貫教育コーディネーター (SC) (LC・・ラーニングコーディネーター)

LC・・宇治市立宇治小学校 小西 信行

SC・・宇治市立黄檗中学校 山根 知貴

☆ジョイントプランは組織図を含めてA4用紙3葉まで。

令和5年度 宇治黄檗学園(宇治小学校・黄檗中学校)組織図



令和5年度 黄檗中学校ブロックジョイントプラン 構想図

—黄檗中・宇治小—

教育目標・めざす子ども像

たかく すずしく たくましく

- ① 高い志を持って、学びの道を究める人(確かな学力)
- ② さわやかな心、優しい心を持った人(豊かな人間性・社会性)
- ③ 強い志を持って、人生を切り開く人(意欲や情熱・健康な体)



本年度の目標・推進の方向性(重点)

課題解決型学習を中心とした研究の推進

課題解決型学習を手段とした認知能力と非認知能力の一体的な育成(小)

教科等横断的な課題解決型学習による論理的思考力の育成(中)



中学校ブロックの本年度の取組

☆9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって

- ・各教科領域の学びをつなげる課題解決型学習の実施
- ・児童生徒が意欲を持って取り組める家庭学習の実施

☆連続性のある子ども理解と生徒指導に関わって

- ・9年間の継続的な生徒指導を進めるための小中での課題の共有化

☆指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって

- ・各教科領域の学びをつなげる課題解決型学習の実施
- ・9年間の継続的な生徒指導を進めるための小中での課題の共有化

☆家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって

- ・子どもフェスティバルなどの育友会行事を実施する中での地域とともにある学校づくりの推進
- ・計画的な学校運営協議会開催による小中一貫教育の状況確認
- ・ホームページ等を活用した、学園全体の取組の積極的な広報活動
- ・各教科、クラブ活動等における学校ボランティアの活用

☆推進体制の充実と改善(ラーニングコーディネーターの主な計画内容を記載)

- ・小中一貫教育推進に係る企画・立案
- ・保護者・地域との連携
- ・小中一貫教育推進に係る校内の連絡・調整